

宗田一先生の御逝去を悼む

日本医史学会理事長 蒲原 宏

「札幌の学会のこと宜しく願います。宗田一」という二十文字のメモが先生からの最後のおたよりになるとは夢にも思っていなかった。「これから七十余年の人生のまとめにかかるんじゃない」とおっしゃっておられただけに、さぞや御無念であったことと痛恨の情を禁じ得ない。

先生との初めての出会いが『医譚』復刊第三号（昭和二十九年）に発表された若き日の先生の論文「吉雄育萬阿蘭陀外科秘要」に魅了され、京都の御自宅をお訪ねした時であったと記憶している。四十二年の昔となつてしまった。長屋の一軒分が書齋で書庫、万卷の書に埋もれた中で説き来り、説き去るその該博で整然とした医学史についての見識に圧倒された。貴重な資料、文献を心よく貸与されるごとに、その学殖とお人柄に惹かれ、長距離夜行列車で度々宗田家詣を楽しみにするようになった。先生三十三歳、私は三十一歳であったが、十年か十五年の差を感じさせられた記憶がいまもって鮮明である。

昭和四十年、第六十六回の本学会総会で「日本製薬技術史の研究」の特別講演を期に、その全文を学会誌として自費出版され、『日本医史学会雑誌』が季刊としての定期刊行がようやく軌道に乗せることが出来たのだと当時の事務担当者から聞かされ、先生が学会役員として素晴らしい企画性と経営の実力を持つておられることを知ったのである。その後昭和四十四年から理事として本学会の発展のために積極的、精力的な御尽力をいただいて来たのである。

先生の医史学的業績については専門の薬学史部門ばかりでなく、古今東西の医学、薬学は勿論関連部門の社会科学、

洋学、民俗学等広範な、しかも緻密、正確で実証的な論文は枚挙にいとまがない。

単行書だけでも『はしか繪』（一九六三）、『藪内清京大教授との共著「江戸時代の科学器械」』（一九六四）をはじめ、『日本製薬技術史の研究』（一九六九）、『華岡青洲の麻酔薬「通仙散」をめぐる問題』（一九七一―思文閣）、『近代薬物発達史』（一九七四―薬事新報社）、『日本の名薬』（一九八一―八坂書房）、『健康と病の民俗誌』（一九八四―健友社）、『図説日本医療文化史』（一九八九―思文閣）、『渡来薬の文化誌』（一九九三―八坂書房）。それに本学会が毎日出版文化賞を受賞した『図説日本医事文化資料集成』（一九七八―三一書房）全五巻の刊行にあたっては企画、編集、執筆それに監修と八面六臂の労を何気なくこなされたのには唯々瞠目するだけであった。同じく毎日出版文化賞授賞著作、京都府医師会編『京都の医学史』（一九八〇）の編集顧問として、かつての吉富製薬の学術部長時代の敏腕性と学殖をいかなく発揮され、その懐の深さと指導力は故阿知波五郎博士のそれと好一對をなしたと伝えられている。

岡西為人、中野操、阿知波五郎、三木栄博士らの関西医史学会の四長老亡き後は、日本医史学会関西支部、京都医学史研究会の後継研究者を育成されるとともに医学研究会とのパイプ役として、また日本薬学史学会、洋学史学会など学際的な活動についても積極的に参画され、たゆむことがなかったのである。まさに縦横無尽に学会講演と各専門誌への執筆に寸刻を惜しまれた。ために自己の頑健な体力を過信されたためか、健康管理の盲点にそって病魔が忍び寄って来ていることに気付かれたのがいささか遅すぎた憾みは、口惜しい。

太平洋戦争中は千島列島最北端に近い松輪島の守備隊に在り、奇しくも生還されたが、その当時のスケッチ画をいただいたのも懐しい思い出の一つである。酒を愛し、煙草に陶酔の一刻を過しておられる時にヒラメキが生まれ、楽しんで研究の方法論、論理構成を諄々と説き出す。肌白の頬が次第に紅潮し、やがて口角泡を飛ばす儼々愕々の論議に発展した日がついこの間のように感じられてならない。

先生の出生地は新潟県三島郡寺泊町であり、赤木家という素封家であった。早く北海道に移られたが、同郷のことも

あり、酒が入ると話が越後、佐渡のことに及んだことも懐かしい思い出となって脳裏を去来する。

日本医史学会がこれからという時に先生という偉大な頭脳の人を失なってしまう、なんと表現してよいかわからぬ喪失感の中、唯々呆然とし、あと三年後に控えた日本医史学会総会百回の集会に先生の温顔を見ることのできなくなつたことが口惜しく残念でならない。

本学会員にとつても晴天の霹靂であり、文化史的に広い視野と深い洞察力を持った実力派の医学史家の急逝は何にもまして大きな損失である。

先生と共に第百回総会の祝盃をあげる喜びは無慚にも夢と化した。まさに無常迅速、会者常離の幻の世である。諸行無常と観ずるしかない。今はただ、先生との在りし日を偲び、これまでに浴した公私にわたる数々の学恩を謝し、学会員を代表し、心からの御冥福と、本学会の発展に先生の御加護のあらんことをお祈り申し上げる次第である。

平成八年七月